

# アフリカ地域研究会

2024年7月18日/10月17日/11月21日(木) 15:00 - 17:00

ハイブリッド開催

会場：京都大学  
稲盛財団記念館3階  
会議室

オンラインでの受講は要事前申込

お問合せ：京都大学アフリカ地域研究資料センター

【Web site】<https://www.africa.kyoto-u.ac.jp/>

【Email】[caasas@jambo.africa.kyoto-u.ac.jp](mailto:caasas@jambo.africa.kyoto-u.ac.jp)

【電話】075-753-7803



第262回

2024年7月18日(木)

「職業病としてのビルハルツ  
住血吸虫症」

三島 伸介

関西医科大学 内科学第一講座

関西医科大学 総合医療センター

感染制御部&海外渡航者医療センター

講師



NOBUYUKI MISHIMA 住血吸虫症  
は熱帯・亜熱

帯に広く流行する寄生虫感染症で、約2億人の感染者が推計され、その9割がアフリカ大陸で発生しているとされる。人への感染経路で重要なのが淡水との接触である。住血吸虫症の流行地域では農業を主産業とする国があり、農業に従事することで淡水との接触が避けられず、住血吸虫症罹患リスクが高まる。ここでは、私が調査で関わったマラウイでのビルハルツ住血吸虫の感染リスク、生活環について発表する。



※令和5年度「京都大学人と社会の未来研究院」出版助成・記念講演

第263回

2024年10月17日(木)

「小さな島の海と路地のリズム、女たち

—モザンビーク島の、切れては繋がる近所づきあい」

松井 梓

人間文化研究機構・人間文化研究創発センター  
研究員



AZUSA MATSUI

人びとが密に住まう島で、女性たちは近所で日々食べ物をやり取りし、おせっかいで親密につきあう一方、その関係は固着しすぎず隣2~3軒の範囲で短期間で組み替わる。近所では誰かについてのゴシップが飛び交うが、関係は極めて険悪にはならない。本発表では、おせっかいで親密だがドライさと風通しのよさも併せ持つこの隣人関係がいかに生まれるのかを、海や路地が生み出すリズムと、そこを生きる女性たちの身構えから描きたい。



第264回

2024年11月21日(木)

「日常を取り戻す

—ナイジェリアにおける

警察の暴力とトラウマ」

玉井 隆

東京女子大学  
准教授



TAKASHI TAMAI

ナイジェリアでは治安機関による市民に対する暴力が問題となっている。彼らは警察や軍により暴行を受け、いわれのない罪で逮捕され、刑務所で長期間拘留される。近年ではこうした暴力に対する抗議運動が盛んに行われ、またメディアでは釈放された人々が「被害者」として自身の経験を語る。本発表ではそうした苦難の経験を抱える人々がなぜ、どのように自身の経験を語り、またいかに「新たな」日常を生きようとするのかを検討する。